

平成 30 年度岩手考古学会研究大会（案）

北辺域における古墳時代前～中期の変革

会場：奥州市埋蔵文化財調査センター

時期：平成 30 年 7 月 7 日（土）

趣旨：古墳の北限域にあたる岩手県南部など、東北地方中部は古墳文化の北辺として認識されてきた。古墳時代前期から中期にかけては調査事例が少ないこともあり、活発な研究がなされてきていない部分でもある。しかし近年の調査動向では、宮城県栗原市入ノ沢遺跡の調査成果が注目を集めたように、古墳時代の前期～中期にかけての調査事例も散見される。そこで 今回の研究大会では、岩手県を中心に隣接する諸地域の古墳集落を中心に調査事例をふまえた検討を行い、研究成果の現状と今後の展望をはかりたい。

日程

- 13:00～13:10 開会・趣旨説明
- 13:10～14:00 溝で囲まれた前期の集落
-宮城県北部の最近の調査成果- 村上裕次（宮城県教育委員会）
- 14:00～14:10 質疑等
- 14:10～14:40 胆沢周辺の古墳時代集落 佐藤良和（奥州市埋蔵文化財センター）
- 14:40～15:10 胆沢周辺の古墳 朴沢志津江（奥州市教育委員会）
- 15:10～15:30 休憩
- 15:30～16:00 八戸周辺の古墳時代前～中期 小保内裕之（八戸市埋蔵文化財センター）
- 16:00～16:30 横手盆地の古墳時代前～中期 島田祐悦（横手市教育委員会）
- 16:30～16:50 宇田甕からみた古墳時代中期の遠隔地交流
井上雅孝（滝沢市埋蔵文化財センター）
- 16:50～17:00 コメント・閉会

申込み等

研究大会の参加は岩手考古学会会員以外も歓迎いたします。事前申し込み不要です。当日会場にお越しください。なお、資料代が 500 円（予定）となります。

問い合わせ先

岩手考古学会事務局

盛岡市上田字松屋敷 3 4 岩手県立博物館考古学整理室内 TEL019-661-2831